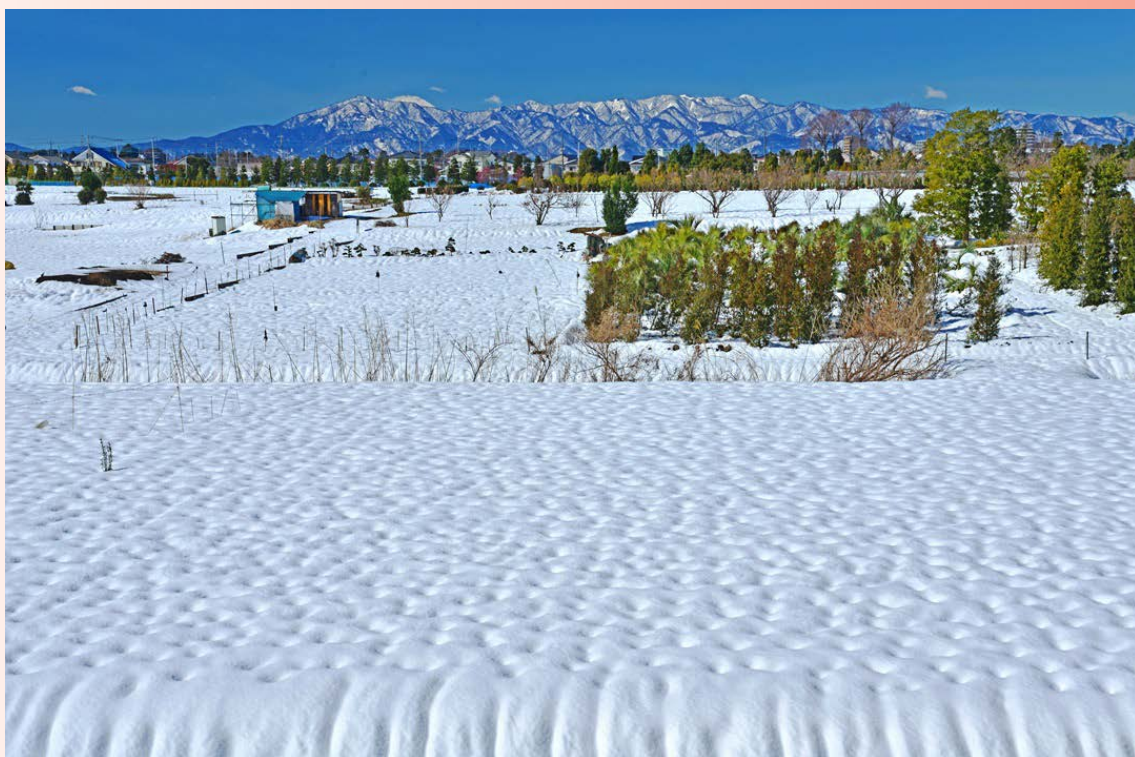


パウダーコーティング

2025年 新年号

Vol.25 No.1



パウダーコーティング

2025 年新年号

巻頭言

新年のご挨拶	7
	長谷川智久
新年のご挨拶	8
	高橋 正
新年のご挨拶	9
	坂井 秀也
持続可能な社会の実現を目指す SDGs (11)	10
	奴間 伸茂
トピックス	
塗料工業分野における CSR ～中堅塗料会社の CSR への取り組み～	12
	山本 晴一
<組合便り他>	
高機能素材 Week 2024 視察	22
各団体新年の行事に参加して！	26
後付	32

編集委員会

編集委員長	柳田 建三 (旭サナック株)	
編集委員	壺岐 富士夫 (日鉄防食株)	妹脊 学 (久保孝ペイント株)
	桜井 智洋 (コーティングメディア)	
	八田 崇史 (日本ペイント・インダストリアルコーティングス株)	
	吉田 誠二 (日本パーカラライジング株)	
顧問	河合 宏紀 (カワイ EMI)	

掲載広告目次

株式会社ケツト科学研究所	1
AGC 株式会社	2
久保孝ペイント株式会社	3
グラコ株式会社	3
株式会社小野運送店	4
日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社	4
ロックペイント株式会社	5
ナトコ株式会社	5
旭サナック株式会社	6
一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会	6
株式会社三王	17
株式会社板通	18
横浜化成株式会社	18
株式会社明希	19
城南コーテック株式会社	19
株式会社アック	19
筒井工業株式会社	20
大日本塗料株式会社	20
パーカーエンジニアリング株式会社	21

NEW 膜厚計 L-500

測定、統計、プリントアウト。
その場で完結。



N=	1	10.9	μm
N=	2	10.8	μm
N=	3	10.5	μm
N=	4	11.3	μm
N=	5	10.9	μm
N=	6	10.9	μm
N=	7	11.1	μm
N=	8	11.2	μm
N=			
N=			
N=			

BLOCK RESULT			
BLOCK 025			
Total N	20		
Avg.	49.0	μm	
S.D.	0.3	μm	
Max.	49.6	μm	
Min.	48.4	μm	

■ 印字例
測定結果や統計計算結果を即時に印刷できます。



■ 測定例
手持ちでも平置きでも測定しやすい形状です。

- 高精度・多機能なプリンタ搭載器
- 検量線メモリと調整データ搭載の新型プローブ
- 調整方法などを対話形式で表示する大型ディスプレイ搭載
- 統計計算機能内蔵（ブロック統計・グループ統計/測定回数・平均値・標準偏差・最大値・最小値）
- 上下限アラーム、連続/ホールド測定ほか、多くの機能を搭載

スペック詳細や使い方動画などは、コチラ



株式会社ケット科学研究所

東京本社 〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1
西日本支店/北海道営業所/東北営業所/東海営業所/九州営業所
URL: <https://www.kett.co.jp/> E-mail: sales@kett.co.jp

AGC

ECO

ここからはじまるECO
塗料用フッ素樹脂粉体

実績と信頼 



AGC化学品カンパニー
AGC株式会社

100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング Tel 03-3218-5040 Fax 03-3218-7843 URL <http://www.lumiflon.com>

SINCE 1967
KING of Powder

NISSIN
Powder

国産初の
静電塗装用粉体塗料。
各種産業分野でいち早く
環境保護、省資源化に貢献。

ニッシン パウダー 粉体塗料カラーカードシステム

粉体色見本帳による
受注システム



豊富な塗色を常備在庫

ニッシン パウダー
(ソリッド色) 182色

ニッシン パウダーコートS
(特殊模様塗料) 20色

合計 202色

1カートン (15kg) よりオーダーOK

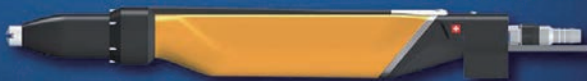
コンパクトで使いやすく、
模様見本を含め全色掲載

久保寿ペイント株式会社

本社・工場：〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路3丁目15番27号 TEL (06) 6815-3111 FAX (06) 6323-5881
関東営業所 TEL (048)660-1200 FAX (048)660-1202 九州営業所 TEL (092)411-7011 FAX (092)411-7041
名古屋営業所 TEL (052)261-1125 FAX (052)261-1135 <http://www.kuboko.co.jp>



自動ガン OptiGun GA03



これまでに類のない驚異的な塗装性能
塗料の大幅削減を約束
際立った定量供給を実現
安定した塗装品質を提供
内面自動塗装の世界を変える



GA03用ポンプ
OptiSpray AP01

Gema



<http://www.gemapowdercoating.com>



グラコ 株式会社
ゲマ事業部

〒224-0025 横浜市中区早瀬1-27-12
TEL: 045-593-7335 / FAX: 045-593-7336

塗料の運搬を始めて 110余年 !

創業明治二十九年

**危険物運搬、塗料系の
廃棄物収集運搬はお任せ下さい**

TEL・FAXにて 当社の産業廃棄物依頼表をご請求下さい
すぐにお送りいたします。

小缶からドラム缶
粉体フレコンバッグも処理します
廃材、ビニールシート廃ローラー、ウェスなどの産廃物も収集いたします
電着槽 塗装ブースの清掃も承ります



収集運搬費・処理費用は別途ご相談に応じます

お客様の気持ち運ぶ

東京都塗装工業協同組合、東京都塗料商業協同組合
埼玉県塗料商業会、日本塗料商業組合神奈川県支部
神奈川県工業塗装協同組合 埼玉県工業塗装協同組合

指定業者

東京都 品川区南品川4丁目2番33号
まずは ご連絡下さい <http://www.ono-unso.co.jp/>
営業担当 里吉まで

TEL 03-3474-2081
FAX 03-3474-2838



株式会社小野運送店



1 Kg からオーダーメイドできる粉体塗料

耐候性向上タイプ新発売!

超小口短納期調色粉体塗料

アルファ

ビリュージア アルティイカラー α

PERFORMANCE

経済的!
1Kg から発注OK!

早い!
オーダー色を短納期で
お届け致します
(当社通常粉体塗料よりも短納期でお届けいたします)

カラフル!
粉体塗料を混合し
お好みの色に調色できます

QUALITY

キレイ!
超微粒子により塗膜外観に優れ、
美しい仕上がり肌が得られます

エコ!
無溶剤で環境に優しい粉体塗料
RoHS 指令対応

つよい!
耐候性に優れています
(ビリュージア アルティイカラー α 対比)



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15 TEL 03-3740-1130



工業用塗料

<http://nipponpaint-industrial.com/>

470ツク[®]

超美粧性粉体塗料

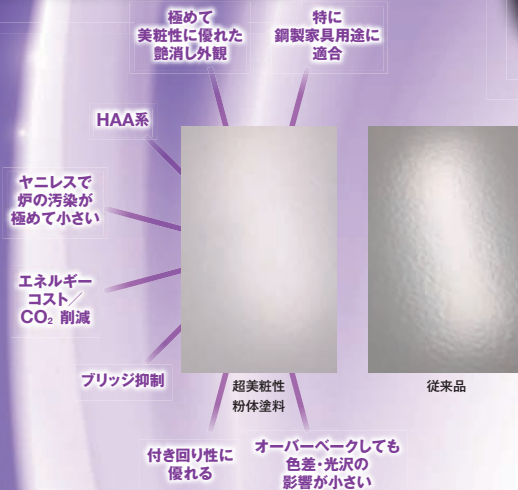
第3世代
HAA
粉体塗料

つや消し性と

高平滑性の両立

▶推奨用途

- デスク
- ロッカー
- 配電盤
- 発電機
- 間仕切り
- 什器
- 照明機器
など



ロックペイント株式会社

詳しい使用方法等については、最寄りの営業所へお問い合わせください。

東京営業部 / 〒136-0076 / 東京都江東区南砂2丁目37番2号
TEL (03)3640-6000 FAX (03)3640-9000
大阪営業部 / 〒555-0033 / 大阪市西淀川区堀島3丁目1番47号
TEL (06)6473-1650 FAX (06)6473-1000

ロックペイントのホームページ <http://www.rockpaint.co.jp>

エコな粉、ええコナ

粉体塗料

エコナ[®]

1ケースからの少量・短納期を実現
特長ある品種

- 薄膜・高平滑タイプ
- 低温硬化タイプ
- ヤニ臭改善型 (PRTR 法対応)
- 高耐候性タイプ
- 艶消しタイプ
- ファインレザータイプ、
レザーサテンタイプ
- エッジカバータイプ



ユニークな発想で新しい価値を創造する◎

ナトコ株式会社

〒470-0213 愛知県みよし市打越町生真山18

営業管理 TEL 0561-32-9651 FAX 0561-32-9652

支店 中部(愛知)・東部(埼玉)・西部(大阪)・西南部(福岡)



デュアル電界方式静電粉体ハンドガンユニット

Eco Dual

AXR II -100DF・AXR II -100ST・AXR II -100FB
 AXR II -200DF・AXR II -100ST・AXR II -100FB

新荷電方式 = デュアル電界方式
 高い塗着効率と美粧仕上がりを両立

塗料使用量削減

塗料への帯電効率が高く、塗料使用量の削減、補正量の減少、産廃量の削減も期待できます。

仕上がり性向上

高い帯電効率を保ちながらフリーイオンの発生を抑え、平滑な仕上がり面が得られます。

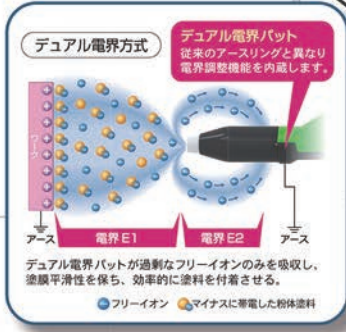
作業時間の短縮

最大吐出量が約350g/minとなり、短時間でより多くの塗料を付着させることができ、作業効率が向上します。

塗料飛散抑制

新設計のインジェクタにより、従来よりも少ないエアで塗料を供給でき、吹き飛ばし等塗料の飛散を抑制します。

豊富な
ノズルバリエーション
最適な条件で
使用可能！



ユニットバリエーション
ご用途に合わせて選択できます

- ・部分流動タイプ
- ・攪拌ホッパタイプ
- ・流動タイプ

塗装FAシステム・機器の総合メーカー
旭サナック株式会社
 本社・工場 愛知県尾張旭市旭前町5050番地
 TEL (0561) 53-1213代 488-8688



「Eco Dual」および「Eco Coater」は旭サナック株式会社の登録商標です。

SDGsやBCPへの対応もISO認証で

LIA-ACは、公平・公正・迅速・丁寧・
 親切な審査を心がけています。
 プライバシーマークは、個人情報の
 保護や運用の状況が適切である
 事業者の証です。



一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会
ISO 審査センター (LIA-AC)



〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-6 共栄火災ビル 7F
 TEL 03-3580-3421 (直通) / 03-5512-7921 (代表)
<https://www.lia.or.jp/lia-ac/>
 プライバシーマークの審査についてもご相談ください。

新年のご挨拶

日本パウダーコーティング協同組合
理事長 長谷川 智久

新年あけましておめでとうございます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2025年が皆様にとりまして良き年となりますよう心より祈念申し上げます。

平素は、当組合の活動にご理解をいただき、格別のご高配を賜り感謝申し上げます。

さて、2020年2月頃より世界的に流行した新型コロナウイルス感染症は、すでに過去のものとなった感がありますが、感染症によるパンデミックが現代社会の大きな弱点であり、我々も忘れることなく危機管理のひとつとして継続した感染症対策が必要であることを再認識させられました。皆様におかれましても社内の危機管理項目に加え、安定操業の確保に努めていただきたいと存じます。

世界情勢は複雑さを増し、2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、現在も交戦中で先行きが見えない状況にあり、天然ガス、原油、穀類をはじめ多くの商品に対する影響が継続し、世界経済の不安定な状態が継続しています。

一方、ハマスの奇襲から始まったイスラエルとの戦争は、歴史的な背景も複雑でこちらも出口が見えない状況で、戦争の拡大や長期化は多くの犠牲者を出すだけでなく、原油価格の高騰の恐れがあり世界経済に打撃を与えます。人道的にも経済の安定のためにも、早期停戦の合意と平和へ向けた動きをしてもらいたいところです。

また、アメリカ次期大統領がトランプ氏に決まり、アメリカ・ファーストに舞い戻ったことも、先行きの不透明感を一層増すことが予測されており、米中の対立の深刻化や世界の二極化など多くの懸念事項が報道されています。

このような状況下ではありますが、IMFの世界経済

の成長率は、2024年4月の「世界経済見通し（WEO）」における予測に沿う形で、2024年は3.2%、2025年は3.3%になると見込まれていて、昨年の2024年の2.9%の見込みに比べ0.3%上振れと見込まれていますので、少しは期待できるところでしょうか。

国内情勢においては、世界に後れを取っているとされる日本のカーボンプライシングですが、2026年から排出量取引制度が本格的に始動し、2028年には炭素に対する賦課金（化石燃料賦課金）が導入されます。温室効果ガスの発生を各企業は抑制し、カーボンニュートラルの達成を目標とせざるを得ない状況で、川下企業からの要求は年々強くなると考えられます。

当協同組合としてもパウダーコーティング誌の記事や粉体塗装研究会等で、今後関連テーマをより多く取り上げてタイムリーに情報提供できるよう努力して参る所存です。皆様ご指導ご協力賜りますようよろしくお願いいたします。あわせて、一般社団法人日本塗料工業会様、一般社団法人国際工業塗装高度化推進会議様、日本工業塗装協同組合連合会様、日本塗料商業組合様等関連団体様との連携強化により、顧客や関係各省への粉体塗装のPRを進めてゆきたいと考えています。

昨年も申し上げましたが、環境に優しい塗料・塗装方法である粉体塗装の拡大を進めて参る所存です。塗料メーカー各社様もHAA（ヒドロキシアリルアミド）硬化型に加え新硬化系で低温化を達成されており、VOCを含まない環境に優しい塗料として、市場より注目を集め、粉体化が進むものと期待しております。

最後になりましたが皆様のご健康、ご発展とご多幸を心より祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

日本工業塗装協同組合連合会
会長 高橋 正

令和7年新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

平素は日本工塗連の事業運営にあたり、関係省庁並びに関係団体の皆様をはじめ関係各位の格別のご支援ご厚情を賜わり厚く御礼申し上げます。

昨年、我が国においては、正月の能登半島地震、地球温暖化の影響とされる酷暑、また、今まで経験したことのないような豪雨など多くの災害が発生しました。一方、経済においては、国際情勢の緊迫化、円安進行と原料不足などによる燃料エネルギー、材料価格の急騰、加えて、少子高齢化などの社会的な背景による人材不足や人件費高騰などが、多くの企業の経営を圧迫しました。

同様に、中小企業の集まりである私たち工業塗装業界も、燃料エネルギー高、材料高の影響をもろに受け、価格転嫁も追いつけず、賃上げや設備投資の原資の確保も難しいという厳しい状況に陥りました。そうした中でも、日本工塗連の各組合会社は、知恵を出し合い、絶えまぬ努力を重ねながら、経営の存続と従業員の雇用維持を図って参りました。しかしながら、全体の仕事量が減少していく中、取引先等でも廃業する会社も多く、各組合会社でも、資金不足、人材不足により、廃業を余儀なくされる会社もありました。

本年においては、米国の大統領選挙で共和党トランプ前大統領が勝利を収めたことにより、自国第一主義の政策が進められるものと思われれます。すでに大手企業は生産拠点を関税影響の少ない国へシフトする動きが見られます。各組合会社には、そのような変化をしっかりと掴み、我が国へ生産拠点を移す優位性を示し、受注量拡大につなげて頂くことを期待しております。更

に、制度、政策が大きく動くことも予想されていますので、しっかり準備し、変化に対応して頂きたいと考えます。

特に、各組合会社の経営者の皆様におかれましては、今こそ、それぞれ五感を研ぎ澄まし、長期的な展望を描き、自社をどの様な方向に進めるか、企業トップの指導力が試される時であり、ネットで情報を集めるのではなく、自らの足で多くの情報を集め、変化や匂いを感じることが重要になる変化の時代になったことを意識しつつ事業を推進して頂きたいと考えます。

一方、昨年、日本工塗連では、人材確保、後継者の育成、更には組合員増強による工業塗装業界の連帯を目的に、「工業塗装とも会」座談会を2ヶ月に1回、開催しました。座談会では、職場環境、価格転嫁、外国人労働者、SDGsなどその時々的重要な課題が議論され、開催が20回目を数えるに至りました。また、総会及び全国大会は神奈川県横浜市で開催され、ご来賓、招待の皆様など総勢123名のご出席をいただき、華やかに開催することができました。更に、将来を担う若手後継者の集まりであるジュニア会も東京で開催され、意見交換会や懇親会を通してお互いの連帯を強めることができました。

最後に、本年も引き続き、各地区では、若手の塗装技術者の技能向上を目的とした塗装技能コンクールや工場見学会、勉強会など組合員の役に立つ多くの事業に取り組む所存でございますので、関係官庁及び関係団体の皆様からのご支援をお願いするとともに、関係各位のますますのご隆盛をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

一般社団法人 国際工業塗装高度化推進会議
理事長 坂井 秀也

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、2025年の新春をお健やかにお迎えになられたこと、心よりお喜び申し上げます。

今世紀は環境の世紀といわれているように、まさしく世界中で環境影響が日常化しています。SDGs活動も、それぞれの立場で「持続可能な開発目標」の実現化に立ち向かっていますが、各国の事情により足並みが揃わず難航しております。地球温暖化現象による気候変動や海面温度上昇も、すでに大きな社会問題となり、私たちの生活もこの異変に直面しております。それに各地域での紛争や不調和が加わり、経済活動への打撃も不安視されております。パンデミクスによる行動変化は、リモートとサプライチェーンを産み、ビジネスの大きな変革が起こり、地産地消として市場に近い現地の製造をサポートする実践的なイノベーションが生まれています。そして、「リショアリング（生産拠点の国内回帰）」や「オンショアリング（自国内でのアウトソーシング）」など、LCAを基本とする流通や生産にメスが入り、それぞれの分野で見直しが行われています。

一方、25年後のライフ予測として、期待される科学技術のさらなる進展がプランニングされていて、今後持続可能な開発目標の実現には、次世代に活躍する若者に委ねられております。健康寿命のための医学アプローチ、再生化する緑化と循環型エネルギー転換活用、情報の共有化やセンサーやロボットによる生活支援などの実現化には、複合技術や業際技術が必要不可欠な存在です。現在も、各分野において競合他社が融合して研究開発が進められており、新たな科学技術による共有化と特異化が期待されております。

世界コーティング協議会（World Coatings Council: WCC）では、サステナビリティレポートにてSDGsテーマを特定しており、日本の塗料・塗装業界におけるこれらの動きも、工業塗装の軸軸と言える自動車のCNに向けた取り組みが行われており、これらの事業

成果が現場で採用されることが望まれています。

IPCOでは、「工業塗装の現場改善」をメインテーマとして、直面しております環境課題、塗装技術の革新、業界ネットワーク推進などのサポートエンジニアリングを進めており、IPCOSTUDYや合同会議にて実績評価を協議しております。

とくに、受託加工がメインの工業塗装においては、被塗物の素材、製品、工程などが予期せぬ変化が起これば、現有ラインの収益に大きく影響する恐れもありますので、受け入れ態勢の再構築が求められております。

昨年からスタートしました高度ポリテクセンターでの「塗装設計者のための工業塗装技術」は、各分野からの参加をいただき、発注者側の課題抽出に大きな成果が得られました。このような取り組みは、塗料・塗装業界のニーズを把握する絶好の機会であり、塗装現場へのフィードバック情報として活用して参ります。

また、IPCOは、コーティング・コンソーシアム（Coating Consortium: CoCo）の発足時から参画しており、現在は日本塗料工業会（JPMA）様とともに「工業塗装における脱炭素へのチェックリスト」の作成を担当しており、日本工業塗装協同組合連合会様と日本塗装機械工業会（SEMA）様作成の「工業塗装ライン工程別でのCO₂排出削減対策例」も進んでおります。完成後は、まずは自社分析をしていただくためのツールとしてお使いいただければ幸いです。CoCoは、このように塗料・塗装団体の繋がりを実践していて、炭素集約型産業としての次世代提案に取り組んでおります。

国連の気候変動会議において、2025年には、CO₂の排出削減から脱炭素の段階的廃止へと流れが変わる兆候が見られており、塗料・塗装業界でも先見的な動きが求められています。最後に、この一年も皆様のご健康とご事業のご繁栄を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。